

絵本の主題の組み合わせと読み聞かせ順序の違いが 絵本に対する解釈と理解に与える影響

榎本 祐季

近年、集団を対象にした読み聞かせであるお話会が、図書館員やボランティアによって盛んに行われている。このお話会の成否においてプログラムは非常に重要であり、作成するにあたっての様々なアドバイスが書籍や Web ページにまとめられている。特にその中には、組み合わせる絵本の主題や読み聞かせる順序が絵本の解釈や理解に影響を与えるという意見が多く見られる。もしそのような影響が確かなものであれば、お話会のプログラム作成において一つの指針となることが期待される。しかし、これらの意見は経験則によるものであり、実験的に検証はされていない。そこで本研究では、お話会のプログラム作成を想定し、組み合わせる絵本の主題と読み聞かせる順序の違いが、聞き手である子どもの絵本に対する解釈と理解に与える影響を実験的に明らかにすることを目的とする。

読み聞かせの条件として、組み合わせる絵本の主題 (2) × 読み聞かせる順序 (2) の 4 条件を設定した。プログラムのメインとなる絵本として「ないたあかおに」を選定し、組み合わせる絵本として「ないたあかおに」と異なる主題の「うそだあ!」、似た主題の「魔法の夜」の 2 冊を選定した。読み聞かせる順序として、メインの絵本を先に読むか後に読むかの 2 条件を設定した。

実験参加者は年長児 32 名である。実験参加者に LC スケール (言語・コミュニケーション発達スケール) の「手ごたえ課題」を実施し、言語能力が均等な 4 グループを作成した。この 4 グループを読み聞かせの 4 条件に振り分け、4 群とした。手続きとしては、4 人を一組とし、絵本 2 冊の読み聞かせを行った後、メインの絵本について解釈アンケートと理解度テストを実施した。解釈アンケートは導入の質問 1 項目と登場人物の心情の解釈を問う質問 4 項目の計 5 項目、理解度テストは物語の事象を問う問題 4 項目と登場人物の心情を問う問題 4 項目の計 8 項目から成る。なお、分析対象は実験参加者 32 名の内、LC スケールと理解度テストの結果が著しく低かった 6 名を除いた 26 名である。

解釈アンケートの結果、似た主題の絵本をメインの絵本の後に読んだ群は、他群に比べて登場人物に感情的なイメージを抱いておらず、物語中の出来事についてわからないという回答が多かった。また、理解度テストの結果でもこの群の得点のみが有意に低かった。このことから、似た主題の絵本を続けて読んだ場合、先に読んだ絵本の印象が弱くなってしまう可能性が考えられる。

本研究により、似た主題の絵本を続けて読むと先に読んだ絵本の解釈や理解に影響を与える可能性があるため、お話会のプログラム作成では順序と組み合わせに気を配るべきであるという指針が示された。今後の課題は、組み合わせる絵本を変更し、絵本による影響を検証すると同時に、サンプル数を増やすことで、実験の信頼性を上げることである。

(指導教員 松村敦)